

震災後の196日

九州産交バス 河合賢一

コンビニおにぎり

- 地震発生
- 店にあったおにぎりがあったという間に無くなる
- おにぎりずっと無い
- たまに入荷するとどこからか噂を聞きつけておにぎりあったという間に無くなる
- おにぎり充足
- おにぎり食べ飽きた。
- おにぎり 1個10円



この間わずか1週間

熊本のバス事業者の声から

ドライバーがよく出勤してくれた。
家族も心配だったのに。

他のライフライン
電気・水道・ガスの
頑張りにと比べると
いま一歩か

防災訓練が必要 地元から貸切
依頼があったが、「走れますか？」
「バスありますか？」と言われ
「どこに」「いつ」行けばいいのか
内容がわからない。
ひたすらバスと乗務員を待機させた。

入札するといわれて、
価格だけ聞かれた。結果
がわからず。受注がある
のかわからなかった。

実際に緊急輸送で走れたのは
バス2~3台走った。

高速道路の復旧は早い
が、他の道路は遅かった

生活情報と運行情報のワン
ストップができないか？
テレビのテロップが役にたった

交通事業者の使命感が
社員から感じられた。

地域への貢献できたか？
バスを走らせる以外に
できることは無かったか？

渋滞が一番大変

貸切の依頼 意思疎通が
十分に出来なかった。
行く途中の道がひどいことも困った。

益城体育館へ3台バスを置き、
避難所として使っていただいた。
たまたま、道路が通れず営業所
まで帰れなかった

家をかたずけないと乗務員が出
勤できない。自分の家が片付くと、
仲間之家に手伝いに行き、徐々に
出勤数を増やした。

社員の意識高い。いい意味で燃えていた。

震災直後も苦情電話はあったが出たが、いままでと声の感じが違った。バスへの強い思いを感じられた。

震災時の公共交通の役割をはっきりさせてほしい。緊急車両扱いできないか。

一般車とごちゃ混ぜになり身動きがとれない。

パトカーで先導してもらったことも。

一次的な復旧のスピードは早いですが、そこから遅い(バスが走れるレベルまで)

危険建物の撤去のスピードが遅い

大規模災害

被災者への営業所の開放などしたい。
水など井戸から使えた。

高速バストイレ付車両

被災地へバスを持って行こうか？

本当に持って行っていいのか？

途中で立ち往生しないのか？

行政の指示・情報があれば動けた

物資輸送等については指示とサポートが無いと出来ない。

最後に県外事業者の声も

高速バスの熊本線が
運行再開になった時
「自分が第一便に乗務したい。」
と志願する乗務員が多数いた。

発災時

夜間であり比較的バスの運行は少ない時間帯。

- ・運行中のお客様の被災は無し。
- ・乗務員本人の死亡・重傷者は無し。
- ・車両・施設の大きな損害は無い。

- ・自宅・家族の被災等により勤務が難しいものもいた。
被害は様々。
- ・乗務員どうしで助け合い。(自分の家が片付くと仲間の家に支援に行く)

路線バス

- ・道路状況を確認しながら運行再開
道路障害・渋滞により正常な運行は困難
- ・九州道の不通により、迂回路となった国道3号線等は激しい渋滞。
(鹿児島・宮崎ナンバー多数＝通過交通が市内に流入し さらに混乱)

路線バス

《渋滞の激しい路線で起きたこと。》

- ・遅延のため、お客様も早めのバスを利用。乗りきれないため、早朝のバスを増便。
- ・遅延により、通常折り返しできる便が折り返せない。乗務員・車両を別に用意し対応。
- ・場所によっては、「歩いたほうがはやい」
どんどんお客様がおりてバスを追い越す。

路線バス

- 15日ぶりに高速道路が開通。しかし、渋滞は解消せず。

国道・県道は開通しても、細い道が不通のまま。抜け道の機能がなくなり普段とクルマの動きが変わることで渋滞。復興等で新たな交通需要も発生。

渋滞→バス遅れる→バスで通えない→バス利用が減る→
自家用車で通う→ところが駐車場被災→駐車場不足→
駐車場待のクルマが長い列→道路に支障→渋滞

都市の交通・・・「実にあやういバランスの上に成立」

高速バス



高速バス 営業所から100キロ以上離れた場所で多数運行。

災害の起きる時刻や場所によっては大きな問題となる恐れも。

今回 最初の震度7の際に、福岡～宮崎線のバスが1台途中の熊本市内の営業所へ避難

(図は平日午前中の弊社バスの運行状況例)

高速道路の緊急輸送

4/20野菜の緊急輸送が始まる。

International

日本経済新聞
2016年10月14日 (金)

Web 経済 ビジネスリーダー マーケット テクノロジー アップ スポーツ N マネー N ライフ
トップ 紙間運動 連載 社説・春秋 特集 映像 FT オピニオン 統計 米大統領選

熊本農家、苦しい最盛期 野菜出荷へ奮闘

2016/4/26 13:01

地震で大きな被害が出た熊本県で、農家らが野菜を出荷しようと奮闘している。被災した選果場の機械が使えなくなり、手作業による選別や箱詰めが続く。ナスやスイカなどの出荷は最盛期を迎えており、生産農家は「少しでも多く食卓に届きたい」と意気込む。

西日本最大級のJA熊本市の野菜選果場(熊本市南区)、ナスが詰まった箱を荷台いっぱいになった農家の軽トラックが次々と到着した。箱は手作業やフォークリフトで大型トラックに積み替えられ、東京や大阪など大都市に向けて出発した。

同選果場は、16日未明の「本震」で野菜を自動的に選別、箱詰めするラインが被害を受けた。9基のうち、ナス用の6基が復旧していない。持ち込まれたナスは生産農家自らが選別と箱詰めを担当している。

熊本はナスの一大産地。「でこなす」のブランドで売り出し、4月下旬～5月下旬に出荷のピークを迎える。同市南区の農家、小山永治さん(66)は「この時期は収穫や交配で忙しい。箱詰めの仕事が増えて家族総出で作業している」と話す。地震で自宅の一部が壊れたが、「先輩たちが築いたブランドを傷つけるわけにはいかない。多くの人に熊本産のナスを届きたい」と作業に精を出す。

ナス用ラインは27日に一部が復旧する見通しとなった。ただ被災して出勤できない従業員が多く、人手不足は深刻。出荷量は地震前の約8割にとどまり、「全面復旧にはしばらく時間がかかる」(担当者)という。

熊本県によると、地震による被害が確認された野菜選果場は14カ所(25日時点)。農産物出荷(2014年)が全国トップのトマトやスイカのほか、2位のナスなどの出荷に影響が出ている。出荷できない場合は廃棄処分とする可能性もあるという。

甚大な被害が出た同県益城町では、名産のスイカがバス栽培による出荷のピークを迎えている。選果場も被災し一時的に農家自ら箱詰めを行ったが、地元農協が徹夜で突貫工事を進め、22日出荷用のラインが復旧した。自宅が被災し、妻と車中泊を送る同町のスイカ農家の男性(67)は「避難生活と手作業での詰め込みが続く、体が持たないと思った。ラインが動いてよかった」と胸をなで下した。

県も支援に乗り出している。地震の影響で渋滞している一般道を避けるため、九州自動車道の益城熊本空港インターチェンジ(IC)―種木ICの通行止め区間を、野菜を運ぶトラックは20日から緊急車両扱いで通行できるようにした。担当者は「輸送が遅れて鮮度や品質が落ちれば生産農家と消費者の双方が困る。熊本の産地を守っていきたい」と話している。

日経新聞電子版 2016年4月26日より

4/23 高速バス緊急輸送始まる。

交通網、復旧進む＝九州新幹線、博多と直結－高速バスも・熊本地震

JR・新幹線＋宿泊パックがお得

(例) 東京・名古屋17,000円～(新幹線指定)パックでお得/ネット予約OK/日本旅行 nta.co.jp
へ進む



熊本地震で大きな被害を受けた九州新幹線が23日、博多－熊本間で運転を再開した。最初に震度7の地震が起きた14日夜以来、9日ぶりに九州最大の都市と被災地が新幹線で結ばれた。九州自動車道は熊本県内で通行止めが続くが、高速バスの通行が可能になるなど、九州の交通網は徐々に復旧が進んでいる。



運休していた九州新幹線の博多－熊本間が再開し、JR熊本駅に到着した人たちは23日午後

【特設ページ】熊本地震 最新情報

九州新幹線は23日正午前、博多－熊本間で運転を再開した。24日以降は朝から上下線で計30本を走らせる。すべて各駅停車で、新玉名－熊本間は高架橋などを応急補修した影響で徐行運転する。博多－熊本間は各停で通常50分ほどだが、1時間5分程度かかるという。

博多－熊本間の運転再開で、ボランティアの現地入りや県外避難がしやすくなる。一方、熊本－新水俣間は脱線事故の影響で不通が続く。新水俣－鹿児島中央間は本数を減らして20日に再開した。

時事通信社WEB 2016年4月23日より

緊急輸送

- 緊急の人的輸送のニーズ
 - ・被災した福祉施設・病院などからの移送

実情

- 要請する側・・・自治体等
- 要請される側・・・バス会社
 - 連携は不十分だった。

緊急輸送

- 貸切バスは好き勝手に走っているように見えるかもしれませんが、
実際は
「どこに」「いつ」「どの車両が」
「どの乗務員が」「どのように」
走るか綿密な打ち合わせをし、計画立案の上
走っています。
- また貸切バスが走る道路の状況について、
長年の蓄積があります。

緊急輸送

- したがって今回のような緊急自体にどうすべきかわからない。

- どうやって・・・どの道が使えるかわからない？

途中で通行止めに遭わないか？

交差点で曲がれずに立ち往生して、

迷惑をかけないか？

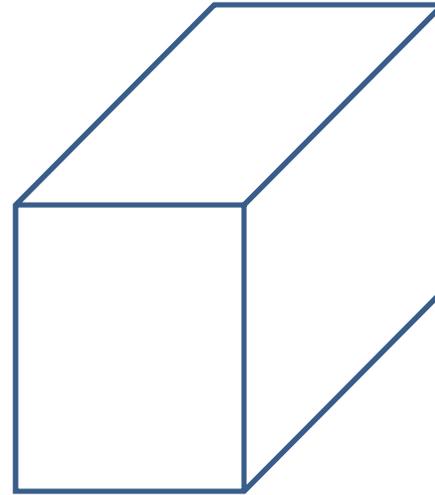
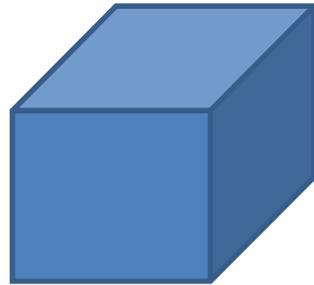
- いつ・・・どの乗務員を走らせていいか？

バスは意外と大きい

- トヨタカローラ いすゞエルガ(路線バス)
- 幅 1690mm 2485mm
- 高さ 1460mm 3045mm
- 長さ 4400mm 11130mm
- 最小回 4.9m 9.3m
 転半径

バスは意外と大きい

- トヨタカローラ いすゞエルガ(路線バス)



- 幅よりも、高さ・長さが問題

バスは意外と大きい

- 被災した状況では
- 高さ
 - 2階建ての建物の傾斜
 - 電柱の傾斜・それによる電線の垂れ下がり
- 長さ
 - 交差点にある建物が損壊し、支障となると
 - 交差点で立ち往生する



現在(10月2日)の益城町

町内中心部
県道28号線
バス路線としては
熊本都市圏の5方
面の幹線の終点
近く

道路としても、バ
ス路線としても幹
線だが、まだこの
ような状況。

バス通りから見ると

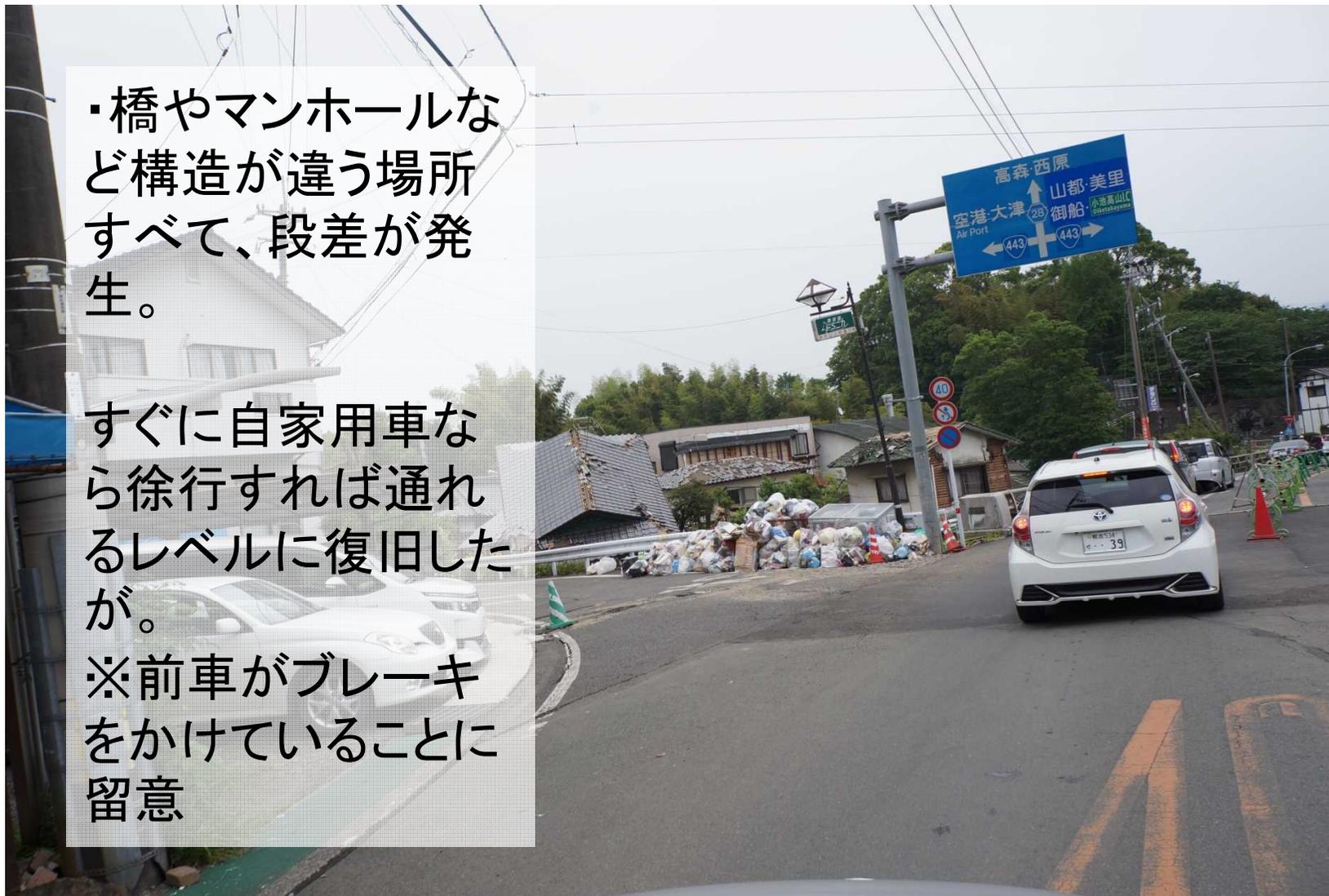


上ばかり見ているとあぶない！

・橋やマンホールなど構造が違う場所すべて、段差が発生。

すぐに自家用車なら徐行すれば通れるレベルに復旧したが。

※前車がブレーキをかけていることに留意



大型バスの走れない益城町中心部へ
はここでマイクロバス(無償運行)で乗り換え



なんとかこの状況を震災前に
戻したい。

バス運行以外の事例

- 発災直後から、近隣の方が避難に来た
「余震が怖い」「車中泊」
- 市内ほとんどで断水
洗車用に井戸 水が使えた(飲用不適)
電動ポンプ 停電すると使えない。
- 炊き出し
地域の方・社員におにぎりと豚汁
これまで 組合活動で年末に餅つき大会
大鍋で豚汁を作っていた。
- 営業所内で高速バスのトイレを開放

実際にトイレを開放した車両



路線バスを活用した被災地支援について

現在開発中の低価格バスロケシステムの拡張機能として、被災地への物資輸送(ラスト・ワンマイル)機能を検討中

また、コンパクトで燃費の低いノンステップバスを導入すれば、避難所付近の避難者への物資輸送がより容易になり、バスを有効活用することができると考えます。



被災時の人的移送支援

今回夜間の災害発生で大規模停電も伴った為、金品を持たずに屋外にでて公園等に「勝手避難所」とマスコミ等と呼ばれる避難所が多数できた。避難指示の期間中のバスの乗降について、指定避難所近くのバス停での乗降については無料等事前に決める事ができていれば、避難所数をより集約できます。

また、避難勧告時点での避難所への移動についても、事前に決める事ができればよりスムーズな移送手配ができると思われます。

(例: 避難勧告が発令されると該当する地区の世帯数 ÷ 100 程度のバスを事業者は3時間以内に車両及び乗務員を用意し、要請があれば配車し移送します。費用は事前の協定にて決定)

個人的な感想

- 地震に限らず、災害時にとっさの機転と行動力で多くの人を救った話をよく聞きます。
- 少なくとも自分については、そのようなことは全くできませんでした。
- 事前の備えをすることに尽きると思います。
(難しいことでは無いはずです。)

ご清聴ありがとうございました。

ご意見 ご質問等ございましたら

九州産交バス 河合

096-325-8241

kawai-kenichi@kyusanko.co.jp

熊本観光のご案内でも結構です。